



シンポジウム

弥生・古墳時代の 鹿と人間のかかわり

弥生時代と古墳時代には、縄文時代の狩猟・採集社会から農耕（水田稲作）社会へと変化しました。鹿と人間のかかわりも大きく変容し、図像、形象表現や呪術の対象としてのウェイトが大きくなりました。そこで、本シンポジウムでは、弥生土器と銅鐸、ト骨祭祀古墳時代の埴輪における鹿の表現について3人の専門家による解説の後、弥生・古墳時代の鹿と人間のかかわりについてパネルディスカッションを行います。

また、鹿ジビエ交流会を引き続いて開催し、森の恵みである鹿肉の魅力を知っていただく場を設けます。

シンポジウム「弥生・古墳時代の鹿と人間のかかわり」・鹿ジビエ交流会

日時： 2024年12月7日（土）13:30～16:30 シンポジウム
17:30～鹿ジビエ交流会

シンポジウム

- 講演Ⅰ 桑原 久男（天理大学人文学科教授）「弥生土器と銅鐸に描かれた鹿」
講演Ⅱ 國分 篤志（日本考古学協会会員・埋蔵文化財調査士）「弥生・古墳時代のト骨祭祀」
講演Ⅲ 小泉 玲子（昭和女子大学 人間文化学部 歴史文化学科教授）「古墳時代の鹿形埴輪」
パネルディスカッション 「弥生・古墳時代の鹿と人間のかかわり」

会場： ユニコムプラザさがみはら
相模原市南区相模大野 3-2-2 bono 相模大野サウスモール 3階
最寄り駅：小田急線相模大野駅 徒歩3分

オンライン：Zoom で配信

会費・定員：シンポジウム 定員 100名（先着順）入場無料
交流会 定員 48名（先着順）実費 3,000円（当日支払い）

申し込み：以下のリンクまたは右の二次元バーコードから応募
<https://forms.gle/mxGEA6BuSGzjD6Tt6>

主催： 全国シカ資源開発利用協議会
担当： 一般社団法人全日本鹿協会
後援： 一般社団法人日本考古学協会、一般社団法人日本ジビエ振興協会



シンポジウム

弥生・古墳時代の 鹿と人間のかかわり



埴輪鹿
(天神山古墳出土)



ト骨
(毘沙門C洞窟出土)

日時： 2024年12月7日(土)
13:30～16:30 シンポジウム
17:30～鹿ジビエ交流会
会場： ユニコムプラザさがみはら&オンライン



扁平鈕式銅鐸
(伝香川県出土)

講演者略歴 (登壇順)

講演Ⅰ「弥生土器と銅鐸に描かれた鹿」

桑原久男 天理大学 人文学部 教授

1963年生まれ。京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。専門は考古学。唐古・鍵遺跡の発掘調査を契機に、弥生時代の研究を続けている。とくに銅鐸や土器の「絵画」に関心があり、弥生人の精神生活にアプローチを試みている。著作は「戦士と鹿—清水風遺跡の絵画土器を読む」『宗教と考古学』、「角のあるシカ—絵画銅鐸と銅鐸絵画にみるシカ図像の頭部表現」『弥生研究の交差点』など。

講演Ⅱ「弥生・古墳時代のト骨祭祀」

國分篤志 日本考古学協会会員・埋蔵文化財調査士

1982年生まれ。千葉大学大学院文学研究科修了。株式会社島田組(民間の発掘調査組織)入社、現在に至る。専門は日本考古学。特に弥生時代から古代にかけての祭祀に興味を持つ。ト骨には千葉大学での発掘調査の実習で確認して以来取り組んできた。主な論文は「弥生時代～古墳時代初頭のト骨」(千葉大学『型式学の実践的研究』2)、「史料・神事にみるト占」(千葉大学『型式学の実践的研究』3)など。

講演Ⅲ「古墳時代の鹿形埴輪」

小泉玲子 昭和女子大学 人間文化学部 歴史文化学科 教授

昭和女子大学文学部卒、早稲田大学第二文学部卒。2012年から現職。野毛大塚古墳の調査参加をきっかけに埴輪研究を始める、テーマは埴輪の線刻、柵形埴輪、埴輪の動物意匠。弥生時代前期中屋敷遺跡他の発掘調査を実施。主な論文「円筒埴輪の線刻」『史観』、「鹿形埴輪」『昭和女子大学文化史学研究』ほか。

全体司会：小笠原永隆 全日本鹿協会 理事 帝京大学 経済学部 観光経営学科 教授
コーディネーター：石井陽子 全日本鹿協会理事 鹿写真家